

日本計量生物学会

ニュース・レター No.67

1999年4月

目次

巻頭言

会長から一言

事務局移転のお知らせ

1999年日本計量生物学会総会開催のご案内

日本計量生物学会新旧合同理事会議事要旨

その他のお知らせ

三輪哲久 (農業環境技術研究所)
IBC98のサテライト集会“Biometry at Work Towards Environment 2000”に参加した。この集会はIBSのGroup Zimbabweがオーガナイズし、IES (International Environmental Society)などが後援している。

最近、「環境」研究が盛んである。この環境というものは、「中心に何か」があってはじめて成り立つ概念である。その中心に位置するものが生物 (たとえば人間や、農業や、野生生物) の場合、いろいろな意味で問題が複雑化してくる。この生物と環境とが関わる部分には計量生物学 (biometry) で取り扱うべき多くのテーマが存在するように思われる。

今回のサテライト集会も、タイトルが示すように計量生物と環境とに関するものであった。参加者数は17か国から約40名。6件の招待講演と、20件の一般講演 (ポスター2件)があった。日本からは、正法地先生、柳川先生、私の3名 (プラス同伴者) が参加し、いずれも一般講演発表を行なった。

農業に関する話題が9件と多かった。食料増産が急がれるアフリカにおいても、持続的農業・環境にやさしい農業は重要なテーマとなっているようだ。また、農民参加型 (farmer participatory, on-farm) の実験についての報告もあった。今後、農業環境の研究を進める上で、農業技術×環境の相互作用を評価するためには、試験場内だけの実験にとどまらず、試験場を出て現地での実験を実施する必要があるかもしれない。このテーマはIBC98の特別セッションでも取り上げられた。

気象変動に関する講演も多く、エルニーニョ・ラニーニャ現象の解析、極値統計量を利用した気象変化の解析などが報告された。チェルノブイリ事故に関しては、事故処理に従事した労働者の健康調査の解析、ドイツにお

ける周産期死亡率の解析の2件が報告された。そのほかに、環境データ解析のための方法論に関する報告もあった。

集会はIBC98に先立ち12月7日から11日まで、ジンバブエのビクトリアフォールズで開催された。日本からは遠く、ロンドン・ヨハネスブルクを経由して3つの飛行機を乗り継いで到着した。因みに私の場合、IBC98とサテライト集会とで7回の搭乗が含まれていた。「かりに1回の検定の危険率は小さくても、検定を繰返し行なうと、どこかで…」と多重比較の講義のときに言っていることを思い出し不安であった。しかしKempton博士の“How safe is safe?”と題する特別講演で、航空機は他の乗り物に比べて格段に危険度が小さいことが紹介され、多少は安心した次第である。

ビクトリアフォールズには有名な大瀑布のほかに、樹齢1000~1500年と推定されるバオバブの大木があり観光スポットになっている。そのバオバブの木も網の柵で囲まれて観光客は木に触れることができない。木の警備員の話によると、柵は、観光客ではなく野生の象から木を守るためだそうである。このあたりは野生の象が出没し、木をかじったり、排泄物を残したりして木を枯らしてしまうのだそうだ。集会最終日にKeogh女史がジンバブエに関する各種統計数値を示された。その中で、ジンバブエに関する限り現在の象の数は許容量を大きく超えていることが紹介された。野生生物は、環境の影響を受ける側としてとらえられることが多い。しかしバオバブの木を中心に考えれば、野生の象は負のインパクトを与える環境なのであった。

最後に、biometryとenvironmetricsとを結び付けようという意欲的で有意義なサテライト集会の実現に奔走されたGroup ZimbabweのErica Keogh女史に心から敬意を表したい。

IBC98サテライト集会に参加して

会長から一言

吉村 功

前号で述べましたが、日本が地球社会の一員であるためには、分に応じた国際的労力負担をしなければなりません。われわれの場合、その一つは、国際計量生物学会（International Biometric Society：IBS）の運営に、時間と脳活動を割くことでしょう。学者は論文を書くことが本務だ、という学者観・学問観は（I@Cのように）政治好きがのさばるのを防ぐために大切ですが、それを強調するあまり、組織運営の仕事を雑用だと卑しむべきではないと思います。

なんでこんなことを言うかといいますと、IBSの理事（Council）選挙における投票率が、日本では20%程度とかなり悪いのです。今年、2000～2003年までの理事選挙が行われますが、これに皆さんの投票をお願いしたいのです。せめて投票率が50%程度になってほしい、と私は願っています。秋くらいに来るBiometric Bulletinの中の投票用紙を使って、是非投票をお願いします。

話は変わりますが、新理事会では、メール上で議論をするメール理事会を試行的に始めています。3月が定例メール理事会の第1回です。これは緊急な課題があるときは大変便利です。しかし異なる意見がいろいろ出るときは問題が生じます。会話表現にうまい下手があるように、文章表現にもうまい下手があつて真意が伝わらなかつたりします。会話であれば後に残りませんが、文章表現は後に残ってしまいます。会話での議論では最後に議長がまとめてこれでいいでしょうね、といったときその場の雰囲気収まるものが少なくないのに、文章でのやりとりだとその断片の尊重が気になって、まとめが難しくなります。時間的な行き違いも非常に多くなります。誰がいつメールボックスを開くかが違うため、何人かの間でトントンと収束しかかっていた問題が振り出しに戻ったりします。最近、週刊誌で話題になっているメール恋愛の破綻と同じようなことも起こり得ます。今度の年会の折りに、会話理事会を開いてこういう問題をどう円滑化するか検討します。似た問題を克服した経験がありましたら、身近な理事あるいは事務局（4月からbiometrics@sinfonica.or.jp）

に伝えて下さい。

事務局移転のお知らせ

この4月1日から日本計量生物学会事務局が「財団法人 統計情報研究開発センター（略称 Sinfonica）」に移転いたしました。学会への連絡、お問い合わせ、連絡先変更などは新事務局まで、FAXまたは電子メールでお願いいたします。新事務局での学会事務は週一日だけの契約となっておりますので、電話による連絡はご遠慮下さい。

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F

（財）統計情報研究開発センター内

日本計量生物学会事務局

FAX 03-5467-0482

e-mail: biometrics@sinfonica.or.jp

事務局の移転にともない、担当者が学会設立以来事務を担当していただいた栗原恵美子さんから風間美佳さん（Sinfonica）に変わります。栗原さん、長年にわたりどうもありがとうございました。

なお、統計数理研究所佐藤研究室での事務は、今年度の総会委任状の取扱いが最後となります。

佐藤俊哉 庶務担当理事

ご挨拶

3月いっぱい事務局をやめさせていただくことになりました。

長い間皆様方のご協力ありがとうございました。

日本計量生物学会が発足して今年でちょうど20年になります。この区切りの年に事務局を引き受けてくださるところが見つかってよかったと思っています。

この会とは、計量生物学会になる前の研究会時代からの長い付き合いです。学会になってからも会長が5代変わりました。

世の中の進歩もめざましく、ワープロやパソコンの無かった頃は皆手書きでやりました。そんな中で1984年に日本で開催された国際学会は今となっては一番の思い出です。その他いろいろ思い起

こして居ります。

担当は変わりますが、事務局へのご協力を相変わらませずよろしくお願い致します。

学会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。(栗原恵美子)

1999年日本計量生物学会総会 開催のご案内

合同年次大会 2日目の5月7日12:00~12:30に1999年度日本計量生物学会総会を開催いたします。以下の議題、

1. 1999-2000年日本計量生物学会理事選挙結果の報告
2. 事務局移転について
3. 1998年度活動報告
4. 1998年度決算報告・会計監査報告
5. 1999年予算案
6. 名誉会員の推薦(奥野忠一氏, 佐久間昭氏, 増山元三郎氏)
7. 1999年活動計画
8. その他

を予定しています。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

なお、都合により参加いただけない場合には、委任状の提出をお願いいたします。今年の年会は連休直後ですので、委任状は4月23日(金)までに投函して下さい。

日本計量生物学会 新旧合同理事会議事要旨

日 時:平成11年1月11日(月)18:15~20:00

場 所:統計数理研究所

出席者:大橋, 折笠, 佐々木, 佐藤(俊), 高木, 丹後, 三中, 三輪, 柳川, 山岡, 吉村
新旧理事, 栗原 事務局

1. 前回議事要旨の確認

前回議事要旨を承認した。また、「1999-2000年日本計量生物学会理事当選人による連絡会議」議事要旨を、若干の語句の訂正後、承認した。

2. 各理事からの報告

会長から、学会活動の新機軸を打ち出せなかった、という反省があった。

セミナー企画理事から、臨床の部のセミナー報告は、第5回と第6回を一緒にし、雑誌のSupplementとして出版を予定している、生物の部は、第5回の原稿を集めているところ、との報告があった。ここで、雑誌の編集方針について、最近の雑誌はセミナー報告がほとんどであるという意見があった。これに対し、オリジナルレポート、プレリミナリーレポートを出す努力が必要、プレリミナリーレポートはもっと活用すべきではないか、という議論があり、新理事会への要望事項とした。

国際担当理事から、Biometric Bulletin correspondentとして日本支部の活動報告を十分に行えなかった、と報告があった。

大橋理事から、「試験統計家の資格化に関するワーキンググループ」は、すでに一回会合を持ったが、このところ臨床試験をとりまく動きが急であるので、年度内にもう一度会合を持ち、そのあとで理事会に報告したい。会計理事は、現在1998年度の会計をまとめているところ。渉外担当理事は、名誉会員に関する規約を整備したので、次回総会でぜひ名誉会員を推薦してほしい、また、柳川理事から提案があった「学会賞」の制定については議論がまとまらなかったため、新理事会で引き続き検討してほしい。

その他、入会案内については駒澤理事の案を、新理事会でもう一度検討する。昨年(1998)の年会で、学会の活動が医薬に偏りすぎているという批判があったので、この点も新理事会で検討してもらうことにした。

3. 新事務局について

会長から、1999年4月に事務局を現在の統計数理研究所佐藤研究室からシンフォニカ(〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F(財)統計情報研究開発センター)に移転する、と報告があった。応用統計学会と事務局を共通にすることで、事務経費の軽減をはかることを目的としている。シンフォニカの勤務は週3日、電話での対応は難しいので、事務局との連絡はFAXとメールで行う。

4. その他の報告

IBC98の Council会議で議題にあがった項目のうち、1. Biometricsの版を大きくし、Shorter Communicationセクションを廃止する、2. ASAとJABESの契約を更改する、の2点について、多数の理事から賛成の意見があったので、柳川 Councilから1月8日に本部に承認の返事を送った。吉村会長から、IBC98のPresident会議で、IBSの各委員会とregionとの意思疎通が悪くなっている、IBS各委員会ではできるだけ各regionの意向を反映するようにしよう、という議論があったことが報告された。

5. 三役および役割分担

以下のように決定した。

会長	吉村 功
庶務	佐藤俊哉
会計	佐々木秀雄
会計補佐	佐藤喬俊
広報	林 邦彦, 山岡和枝
編集	越智義道, 岸野洋久, 丹後俊郎
企画 年会	上坂浩之, 椿 広計, 三輪哲久 セミナー(生物)二宮正士, 三中信宏 セミナー(臨床)折笠秀樹, 後藤昌司
国際	大橋靖雄, 柳川 堯
渉外	丹後俊郎
学会会議	大瀧 慈
関連学会懇談会	柴田義貞

役割の変更に伴い、IBS本部のBiometrics Editorial Advisory Committeeの委員として丹後理事から大橋理事に交代してもらうこととした。日本支部の新会長、庶務、会計とEditorial Advisory Committee委員の交代について、佐藤(俊)が本部に連絡する。

応用統計学会との連絡委員会には、会長、庶務、会計、年会企画(吉村、佐藤(俊)、佐々木、上坂、椿、三輪)があたる。また、同連絡委員会プログラム編成作業委員会は、庶務理事、年会企画理事と今年度はサイエンティスト社大野満夫氏があたる。

6. 1999年合同年次大会

特別セッションオーガナイザー丹後理事から、以下の企画案が報告された。

5月7日午後1:30~5:00

特別セッション「ダイオキシン類のリスク評価」
オーガナイザー 丹後俊郎(国立公衆衛生院),
柴田義貞(長崎大学)

1. 森田昌敏(国立環境研究所)

「測定に関する諸問題-精度・施設間差・許容基準-」

2. 遠山千春(国立環境研究所)

「一般生活環境中における人体への曝露評価とその方法
-大気・農作物・土壌・水・魚-」

3. 内山巖雄(国立公衆衛生院)

「ごみ焼却施設周辺の曝露評価とその方法
-埼玉県所沢市のごみ焼却施設周辺-」

4. 丹後俊郎(国立公衆衛生院)

「ごみ焼却施設周辺の曝露評価とその方法
-茨城県龍ヶ崎市新利根町ごみ焼却施設周辺-」

5. 渡辺 昌(東京農業大学)

「これまでの疫学研究によって示唆されている健康影響とその評価方法」

6. パネル討論

7. 理事会の運営について

庶務理事から、「メール理事会」を主として理事会を運営することに関して別紙案が出され、規約によると理事会は会長が招集するのではなかったか、出張中などでメールが読めない場合はどうするか、議論があった。

8. その他

2001年のISIはソウル開催が決まっているが、そのときにEnvironmetricsのサテライトシンポジウムを日本で開催しないかと柳川理事が打診されている。国際協力という観点から前向きに検討することにした。

今回は、3月15日に「第2回定例メール理事会」として開催予定。

記録 佐藤俊哉

○1999—2000年日本計量生物学会 理事会覚え書

1. 対面理事会は原則として年に2回、年会（春）およびセミナー（秋）開催時に実施する
2. 通常は奇数月の「定例メール理事会」を中心に理事会を運営する（メール会議の詳細は、「メール会議実施手順書」を参照のこと）
3. 国際本部とのやり取りなど緊急の場合は、各担当理事は「随時メール会議」を開催することができる
4. メール会議だけでは結論を出すにいたらなかった場合、会長の判断で対面理事会を開催することができる

○日本計量生物学会理事会 メール会議実施手順書

- ・メール会議は、すべての理事が理事全員に送信する
- ・メール会議での敬称は「～さん」とする
- ・メール会議には添付文書は使用しない、丸数字、全角ローマ数字等の特殊文字、半角カタカナは避けすべて平文テキストで送信する
- ・メール会議ではデフォルトを設けない、必ず「了承」、「反対」、その他意見を送信する

I. 定例メール理事会

1. 定例メール理事会は、毎奇数月第3月曜日、庶務理事が議題をとりまとめ送信する
2. メールの表題は「第～回定例メール理事会」とする
3. 議題はなるべく報告事項を中心とする
4. 各責任担当理事は、奇数月第2金曜日までに、庶務理事あてに報告事を（報告事項がない場合は、その旨を）メール送信する
5. 定例メール理事会の期間は、通常1週間とする。報告事項の確認、協議事項の議論などはこの間にやり取りする
6. 庶務理事は、定例メール理事会終了後同月末までにメール理事会議事録を作成し、理事全員に送信する

II. 随時メール会議

1. 随時メール会議は、必要に応じて担当理事が各自の判断で開催できる
2. 会長は、必要に応じて随時メール会議を「理事会」とすることができる
3. 随時メール会議を開始する場合は、(1) 緊急性の理由、(2) 返事の締め切り（会議期間）、を明記する
4. 随時メール会議を開催した理事は、終了後議事録を作成し、定例メール理事会用に庶務理事あてに送信する

関連学会等のお知らせ (1999年4月—1999年12月)

- 1999年4月11日 - 14日 Miami Beach, USA
SUGI 24
- 1999年4月25日 - 27日 Manhattan, KS, USA
Conference on Applied Statistics in Agriculture
- 1999年5月5日 - 7日 Ottawa, Canada
16th International Symposium on Combining Data from Different Sources
連絡先：e-mail：thibchr@statcan.ca
- 1999年5月17日 - 21日 Poznan, Poland
11th International Genstat Conference
連絡先：FAX 48 61 8233671
e-mail: pkra@igr.poznan.pl
- 1999年5月19日 - 21日 兵庫大学
第13回日本計算機統計学会
- 1999年7月19日 - 23日 Technical University
Graz, Graz, Austria
14th International Workshop on Statistical Modelling
連絡先：FAX 43 316 873 6977
e-mail: friedl@stat.tu-graz.ac.at
- 1999年7月28日 - 31日 岡山理科大学
第67回日本統計学会
- 1999年8月8日 - 12日 Baltimore, MD, USA
Joint Statistical Meetings (ASA, ENAR, IMS, and WNAR)
連絡先：e-mail: asa@mhs.compuserve.com
- 1999年8月11日 - 18日 Helsinki, Finland
52nd Session of the International Statistical

Institute

連絡先：e-mail: isi@cs.vu.nl

- 1999年8月19日 - 23日 Tartu, Estonia
The 6th Tartu Conference on Multivariate
Statistics, Satellite meeting to ISI Session

連絡先：FAX 37 27 465486

e-mail: etiit@ut.ee

- 1999年9月6日 - 24日 Trieste, Italy
School on Modern Statistical Methods in
Medical Research

連絡先：e-mail: smr1122@ictp.trieste.itもし
くはsci_info@ictp.trieste.it

- 1999年9月13日 - 16日 Heidelberg, Germany
44th Annual Conference of the German
Society of Medical Informatics, Biometry and
Epidemiology (GMDS)

連絡先：FAX 49 6221 564195

e-mail: GMDS-ISCB99@dkfz-heidelberg.de

- 1999年9月14日 - 17日 Heidelberg, Germany
20th Annual Conference of the International
Society of Clinical Biostatistics (ISCB)

連絡先：FAX 49 6221 564195

e-mail: GMDS-ISCB99@dkfz-heidelberg.de

- 1999年9月20日 - 22日 倉敷市
第27回日本行動計量学会

その他、掲載すべき関連学会・会議・セミナーな
どございましたら、ニュースレター編集委員まで
お知らせ下さい。

編集後記

本号はいつもの号より半月程早めのお届けとな
りました。これは、5月7日に予定されている学
会総会の委任状を一緒にお送りしたためです。総
会への参加ができない方は、委任状をお送り下さ
い。ニュース・レター発行が早まったため、原稿
をお願いしていた方にご迷惑をおかけしました。
また、いつもより記事の少ないニュース・レター
となったことをお詫びします。引き続き、記事募
集中です。

(赤城山から)

日本計量生物学会事務局

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
(財)統計情報研究開発センター内
日本計量生物学会事務局
FAX 03-5467-0482
e-mail: biometrics@sinfonica.or.jp

広報委員会 林 邦彦, 山岡和枝
(連絡先)

〒371-8514 群馬県前橋市昭和町3-39-15
群馬大学医学部保健学科医療基礎学
林邦彦
FAX 027 (220) 8999
e-mail khayashi@akagi.sb.gunma-u.ac.jp